

平成20年4月15日
京阪電気鉄道株式会社

新型車両3000系デビュー

水都・大阪の中心地「中之島」～京都観光の中心地「祇園四条」が60分 「中之島」駅～「出町柳」駅間で快速急行を直通運転

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪市 社長：上田成之助）では、中之島線の開業にあわせて、京阪線（京阪本線・中之島線・鴨東線・交野線・宇治線）のダイヤを全面改定します。新ダイヤでは、「中之島」駅～「出町柳」駅間を直通運転で結ぶ新種別「快速急行」を設定し、大阪の文化・ビジネスの中心地「中之島エリア」と国際観光都市・京都の中心地「祇園・清水エリア」や「洛北の玄関口」を直結します。

「快速急行」は特急に準じる優等列車で、特急停車駅並びに守口市駅、寝屋川市駅、香里園駅に停車します。速達性を重視し、観光目的を中心とした古都～水都間を直通で利用されるお客さまに対応するとともに、中之島へ向かう沿線のお客さまの利便性向上にも配慮しました。

また、快速急行での移動時間を小旅行気分でも快適に過ごしていただくために、1列＋2列配置の転換クロスシートを採用した新型車両「3000系」6編成を新造し、中之島線開業と同時に営業運転を開始します。同車両は、当社車両としては初となるLCD（液晶ディスプレイ：Liquid Crystal Display）表示器を扉上に設置し、停車駅などの旅客案内情報や天気予報、ニュースを表示するほか、全車両にパネルヒータ付きの車いすスペースを設置するなど、快適で便利な車内環境を提供します。さらに、京阪グループブランド戦略による鉄道車両のカラーコンセプトに則り、水都大阪を意識した紺色をメインカラーに採用します。

なお、新ダイヤの詳細は今後最終的な調整を行った上で決定しますが、特急を従来どおり「淀屋橋」駅発着とするなど、既存線の利便性も確保します。さらに、定期券につきましては「なにわ橋駅と北浜駅」、「大江橋駅と淀屋橋駅」をそれぞれ2駅同一駅扱いにするなどサービスを、より充実することで、「中之島線」ご利用のお客さま、既存の「京阪本線」ご利用のお客さまのどちらもが便利なサービスをめざします。

中之島線ダイヤ並びに新型車両の概要は別紙のとおりです。

(別紙)

1. 中之島線ダイヤ

実施日(予定) 平成20年10月19日(日)から

運転区間 中之島駅 - 天満橋駅 3.0 km (営業キロ)

運転ダイヤ(平日昼間時)

- ・中之島線と京阪本線を直通運転
- ・中之島駅からは1時間に8本の列車を運転
(うち2本が出町柳駅行き快速急行)
淀屋橋駅からは1時間に16本の列車を運転
(うち4本が出町柳駅行き特急)
- ・中之島線内は全ての列車が各駅に停車

快速急行停車駅 中之島、渡辺橋、大江橋、なにわ橋、天満橋、京橋、
守口市、寝屋川市、香里園、枚方市、樟葉、中書島、
丹波橋、七条、祇園四条(現・四条)、三条、出町柳
中之島線開業と同時に現・四条駅は祇園四条駅に
改称

快速急行所要時間 中之島駅 - 天満橋駅間 約 7分

中之島駅 - 祇園四条駅間 約60分

中之島駅 - 出町柳駅間 約65分

運転ダイヤの詳細に関しましては決定次第、改めて発表させていただきます。



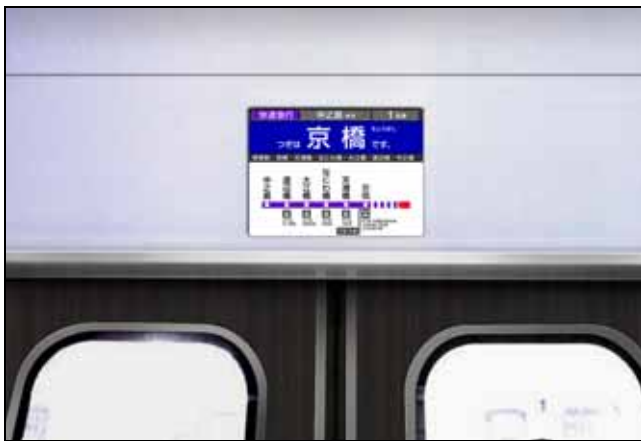
新型車両(外観イメージ)

2. 新型車両

車系	3000系 従来の3000系(1編成)は8000系に編入
編成	8両編成(Mc T T T M T T Mc)
最大寸法	先頭車： 18,900mm(長さ)×2,782mm(幅)×4,138mm(高さ) 中間車： 18,700mm(長さ)×2,782mm(幅)×4,138mm(高さ)
定員	先頭車：113人(うち座席 37人~38人) 中間車：126人(うち座席 45人)
座席	扉間：1列+2列の転換クロスシート 車端部：ロングシート。ただし、運転台後部は2列+2列の転換クロスシート
自重	Mc(制御電動車) 36.5t M(電動車) 36.0t T(付随車) 27.0t~29.5t
構体	アルミ合金
制御装置	VVFインバータ方式
両数	48両(8両編成×6本)
車体製造所	川崎重工業株式会社
コンセプトなど	中之島線開業のシンボルとなるほか、平成22年に迎える当社開業100周年を見据え、次世代のイメージリーダーとしての役割を担う車両です。車両全体の基本デザインコンセプトは、世界的なブランドである京都と、大阪の文化ゾーンである中之島を結ぶという当社沿線の風土である「文化・風情」の香りに、「現代的感覚」を融合させた「風流の今様」としました。外観は、「風流の今様」を具体的に表現するため「花鳥風月」、特に月をモチーフとし、フロントフェイスに円弧状のデザインを取り入れています。京阪グループブランド戦略による鉄道車両のカラーコンセプトに則り、水都大阪を意識させると同時に京のれんや紺袴など伝統と格式を感じさせる紺色をメインカラーとし、都市のきらめきや石庭における川の流れを表すように、銀色の帯と白色を加えました。車内は、「風流の今様」を踏まえ、外観との調和も考慮した結果、月をモチーフとした円弧を造形に取り入れ、配色はメインカラーを濃紺とし、サブカラーには桜鼠(さくらねず)、墨を用い、アクセントカラーとして橙を配しています。また、座席の表地に座り心地が良くソフトな手触りが特長の「エクセーナ」(東レ(株)の最高級スエード調マイクロファイバー素材)を鉄道車両で初めて採用し、高級感を演出します。



新型車両（車内イメージ）



L C D表示器（設置イメージ）



L C D表示器（画面イメージ）

以上